

評価結果

- ・園の自己評価のアンケートを集計し分析して評価として整理した。
- ・☆が3つ:高い水準にある 2つ:一定水準にある 1つ:改善すべき点がある

評価領域Ⅰ 保育の理念

評価分類	評価の理由(コメント)
I-1 子どもの最善の利益の考慮 ①子どもの人権の尊重 ②保育方針・保育目標 ☆☆	・保育の理念は、明文化されていて職員間でも共通認識が少しずつ広がってきているように感じる。 ①子どもの可能性をとことん信頼して成長物語を子ども、保護者、保育者と共に紡ぎ合う ②一人ひとりが主人公であり個性が響き合う豊かな保育を目指す ③保護者や地域の人々の信頼の場として貢献できるよう、楽しく子育てを語り合う事を通して子育てに関する知恵や知識を共有していく その周知を園内研修や園便り等の保護者への発信を通してさらに深めていきたい。課題として、子どもの権利条約や人権の共通理解の取り組みが足りないと考えられるので、共通理解できるよう資料を作成し学び合いを行いたい。

評価領域Ⅱ 子どもの発達援助

評価分類	評価の理由(コメント)
II-1 子どもの福祉を増進することに最もふさわしい生活の場 ①健康・安全で心地よい生活 ②子どもの主体的な生活 ③人との関わりを育む環境 ☆☆☆	・子どもの健康状態に応じて健康管理を徹底して行っている。また、乳幼児期にふさわしい食生活が展開されるよう、食事について見直したり、給食会議で話し合いを持ったりと取り組んでいる。内科健診や歯科健診の結果の通知を保護者と共有するだけでなく、健診に参加する子どもたちへ導入として絵本を活用したり教材や話しをしたりと日常の保育に上手く繋げている。さらに、調理作業をしている場面を見る機会を保障するために厨房の段差を30cm下げているので日々の保育の中で、子どもと厨房の職員の交流も生まれ調理への関心が広がってきている。 ・これからも、普段の保育の中で厨房の方と接する機会を保障し、バイキングや行事の時だけでなく普段の食事の際でも気軽に交流していける様、工夫していきたい。
II-2 生活と発達の連続性 ①子ども観・発達観の理解と共有 ②発達過程に応じた保育 ③個人差への配慮 ④生活の連続性 ☆☆☆	・特に良かったのは、学びの物語を作成して子ども一人ひとりの成長プロセスを可視化し同僚の保育者や保護者と共有しながら保育を振り返りながら展開してきた事だと感じる。それは、子ども一人ひとりを受容し理解して保育を行おうとする姿勢にも繋がってくるので、今後も子どもの発達の個人差や連続性を意識しながら保育の質を高めていきたい。 ・課題として、気になる子どもが安心して生活できるよう環境を整備したり保育の内容や方法を工夫しているのだが、担当保育者以外の職員も含めて話し合ったり、共通理解を図る工夫が不足している。今後、園内研のカンファレンスの時に、気になる子どもの具体的なエピソードをもとに話し合う等、改善していきたい。

<p>Ⅱ-3</p> <p>養護と教育の一体的展開</p> <p>① 主に乳児保育における養護と教育の一体的展開</p> <p>② 主に1、2歳児の保育における養護と教育の一体的展開</p> <p>③ 主に3、4、5歳児の保育における養護と教育の一体的展開</p> <p style="text-align: center;">☆☆</p>	<p>・乳児の保育室は明るく衛生的で、温かな雰囲気があり、なおかつ安全性に配慮しながら、こどもが安心して人やものとかかわれる環境が整備されている。</p> <p>・0歳児は、一人ひとりの生活リズムに合わせて食事や睡眠をとることができるよう、静かな空間が確保されるとともに一人ひとりに応じた援助が行われている。</p> <p>・1、2歳児の保育において、一人ひとりの育ちに応じて、基本的な生活習慣を身につけられるような配慮がされていて、自分でしようとする気持ちを尊重して関わっている。探索活動が十分に行えるような環境が整備され、こどもが安心して遊びを中心とした自発的な活動ができるよう、保育している。</p> <p>・3歳児以上の保育において、遊びを中心とした興味関心のある活動に取り組めるような環境を整えていて、保育者が適切に関わっている。例えば、部屋の中にもいつでも製作に取り組めるように製作台を設けたり、ままごとエリアの雰囲気を高めたり、絵本スペースを設けたり等、様々な要素を環境に取り入れて遊びが充実できるようにしている。</p> <p>・課題として、幼稚園や小学校との連携や就学を見通した計画をたてたり、交流する機会が足りない所である。合同で研修する場を設けたり、接続期を意識したカリキュラムを作成したりと工夫していきたい。</p>
<p>Ⅱ-4</p> <p>環境を通して行う保育</p> <p>① 保育の環境・人的環境・物的環境・空間・自然や社会事象等</p> <p>② 環境の構成・再構成</p> <p style="text-align: center;">☆☆☆</p>	<p>・養護に関して、全職員が徹底して生命の保持と情緒の安定を図るよう工夫している。安全・清潔という環境面だけでなく、安心して自己肯定感を抱けるよう温かな雰囲気の中での関係性も重視して保育している。</p> <p>・教育的な側面から5領域に着目すると、健康では、室内に設置されたネット遊具を中心に身体を多様に動かす楽しさを味わえるようにした。また、南園庭の起伏や西園庭の築山など様々な環境や局面で運動できるよう工夫している。</p> <p>人間関係では、思いやりや道徳心など絵本や話し合いの中で伸ばしていけるよう工夫してきた。特に5歳児の協同的な活動に関して周知が広がってきた。</p> <p>環境では、草花を増やして、生き物への関心や自然現象への好奇心を高めるよう工夫している。今後は小動物も飼育していけたらと思う。</p> <p>言葉では、子どものつぶやきに耳を傾け話し合ったりと丁寧に保育している。絵本の読み聞かせも大事にしている、0歳児から徹底して発達に応じて行っている。</p> <p>表現では、子どもたちの感じたことや考えたことを自分なりに表現できるように様々な素材を提供したり、プロセスを大事にしながらも作品として完成した時には共感的に認めていけるようにしている。</p>

評価領域Ⅲ 保護者に対する支援

<p>Ⅲ-1</p> <p>家庭との緊密な連携</p> <p>① 子どもの成長の喜びを共有</p> <p>② 保育内容等の説明・応答責任</p> <p>③ 子育てに関する相談・援助</p> <p>④ 保護者への個別支援</p> <p style="text-align: center;">☆☆</p>	<p>・様々なお便りや掲示板、学びの物語、ドキュメンテーション、ホームページ等で日々の活動の写真を掲載したりと、保護者へ子どもの成長の喜びを感じられるように工夫している。また、日々の送迎時のコミュニケーションを大切にして信頼関係を高める事で、気軽に子育ての悩みや相談を共有できるように努めている。</p> <p>・ビデオ懇談会では、毎年9割近くの保護者が参加して、日々の保育の様子や成長を分かち合っている。とても好評なので、来年度は1年に2回と回数を増やして子どもの成長を共有できる機会を保障し保護者との信頼関係をより深めていきたい。</p> <p>・課題としては、児童虐待に対応できる様に早期発見及び虐待の予防に努めていたが事務所内の掲示だけでなく、今後は不適切な養育や虐待が疑われる子どもの特徴をはじめ、虐待に関する理解を促すために文章化して研修等で共通理解を図りたい。</p>
---	---

評価分類	評価の理由(コメント)
Ⅲ－２ 地域における子育て支援 ① 保育所機能の開放 ② 関係機関との連携 ③ 情報提供 ☆☆	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園と地域との関わり方について、子どもの社会体験や地域の中での子育ての視点から基本的な考え方を計画等に位置付けている。今年度は、地域のデイサービスの施設へ慰問に行き舞台上でエイサーを踊ってみせたり地域の高齢者との交流を楽しむ経験を重ねた。 ・利用希望者に対して選択に必要な情報を提供するために、ホームページや園のしおり等を改良して、より分かりやすく発信できるよう工夫していきたい。 ・課題としては、園庭解放を行う事が出来なかったため来年度は解放して地域の親子が気軽に訪れて本園で遊べるように工夫していきたい。また、園庭解放の周知度を上げるために掲示板やホームページなどを活用していきたい。

評価領域Ⅳ 保育を支える組織的基盤

評価分類	評価の理由(コメント)
IV－１ 健康及び安全の実施体制 ① 健康の保持及び増進 ② 安全・衛生管理 ③ 家庭や保健・医療機関等との連携 ☆☆	<ul style="list-style-type: none"> ・アレルギー疾患、慢性疾患等を持つ子どもに対し、主治医からの指示を得て、適切な対応を行うよう努めている。園の取り組みとして例えば、食事の献立にチェックをして保護者と密に連携している。また、食事の提供において、他の子どもたちとの相違に配慮している。 ・安全確保のためにリスクを把握し対策を実行している。安全管理のチェックリストを活用し、毎日安全点検を行っている。 ・調理場、水周りなどの衛生管理が適切に実施され、食中毒等の発生時に対応できるような体制を整備できる様、厨房の方が毎年、研修会に参加している。また、園長も衛生管理が適切に実施されるよう日々チェックしている。 ・課題として、子どもの安全確保のための体制を整備するために、担当者を設けて検討会を行ったり、見直したりと取り組んでいきたい。
IV－２ 職員の資質向上 ① 保育の計画 ② 保育士等の自己評価 ③ 保育所の自己評価 ④ 研修 ☆☆	<ul style="list-style-type: none"> ・学びの物語を作成して、自分の保育を振り返り質の向上に努めている。また、保育の振り返りを研修の中心に持ってきている。また、園内の普段の保育を同僚と一緒に振り返る事が出来る様、カンファレンスを毎週木曜日に行う事で、より多角的な視点から保育を見つめ直し共有できるよう努めている。 ・子どもの活動を撮影した写真を添付して作成したドキュメンテーションを掲示することで子どもや保護者と一緒に保育を評価する機会を保障した。今後も、ドキュメンテーションを活用しながら保育の質を高めていけるようにしたい。 ・研修を受けての報告会を設けて、職員間で学び合っている。 ・課題として、評価の結果に基づき組織として取り組むべき課題を明確にし、改善策、改善実施計画を立て実施していけるようにしたい。

評価分類	評価の理由(コメント)
運営・管理、社会的責任 ① 法令等の遵守 ② 個人情報の取扱と苦情解決の責任 ③ 施設長の責務 ☆☆	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所として守るべき法、規範、倫理などを各クラスにある危機管理マニュアルの中で記載して周知徹底を図っている。 ・質の向上に意欲を持ちその取り組みに指導力を発揮している。 ・法人として、中長期計画を定めている。 ・苦情解決の仕組みが確立され園として機能できるよう取り組んでいる。 <p>・課題としては、苦情解決の仕組みの周知を広げていきたい。また、利用者満足の向上を意図した取り組みを行っているが、意識していない面があるので共通理解を深めるため、話し合っていきたい。</p>